

募集中

「WFPチャリティー エッセイコンテスト」作品募集中

テーマ「“すべての人に食べ物を” 私ができること」でエッセイを書き応募すると、途上国の2人の子どもに学校給食を届けることができます。
応募締め切りは10月20日(月)です。ご応募をお待ちしています！

WFP エッセイコンテスト [検索](#)



©ふなっしー



© JAWFP



撮影 藤山紀信



©NobukoBaba



＜特別審査員＞
・ふなっしーさん
・広瀬アリスさん(女優 / 国連WFP協会アンバサダー)
・竹下景子さん(俳優 / 国連WFP協会アンバサダー)
・マリウス葉さん

＜審査委員長＞
堀潤さん
(ジャーナリスト / 元NHKアナウンサー)

ありがとうございました

「WFPウォーク・ザ・ワールド for アフリカ 2025 横浜・大阪・名古屋」開催終了

5月に横浜と大阪で、6月に名古屋でチャリティーウォークイベントを開催しました。計7,511名のご参加により、約707万円の寄付が集まりました。これにより、約23.5万人のアフリカの子どもたちに学校給食を届けることができます。ご参加いただきありがとうございました。



© JAWFP

身近にできる支援 レッドカップキャンペーン

国連WFPが学校給食を入れる容器として使っている「赤いカップ」を目印に、毎日のお買物で学校給食支援ができるレッドカップキャンペーン。新たに3社が参加しました。売り上げの一部は学校給食支援に寄付されます。

<https://www.jawfp.org/redcup/>



飢餓から救う。未来を救う。 WFP 国連世界食糧計画

株式会社バイオバンク	ぼんち株式会社	ヤマト住建株式会社
Dr.ohhira's OM-X 醗酵サプリメントシリーズ、Dr.ohhira's 酵素&コラーゲン	4バックビーナツあげ	エネージュシリーズ



World Food Programme

飢餓から救う。未来を救う。

SAVING LIVES CHANGING LIVES

国連の食料支援機関

国連WFP ニュース

Aug. 2025 Vol.76



© WFP/Lena von Zabern

国連WFPの栄養強化食品を受け取る親子



紛争と気候変動を乗り越え 共に創る飢餓のないアフリカ

飢餓のないアフリカを目指し、課題に挑むWFP

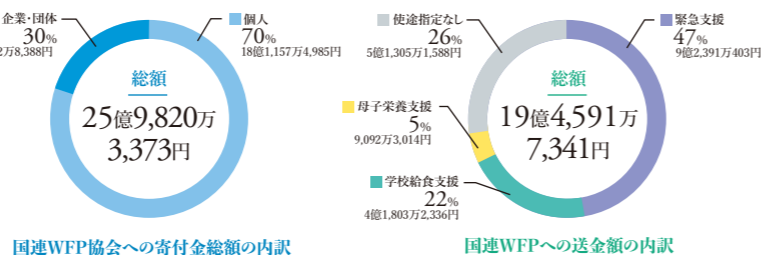
大自然と文化が息づくアフリカ大陸は、多様な環境と長い歴史に培われた豊かな大地です。一方、複雑な課題を抱え、内戦や気候変動による自然災害を起因とする飢餓が頻発し、食料不安を抱えている人が多くいることも事実です。2025年6月に公表した報告書「飢餓のホットスポット」でも、最も深刻な懸念対象国とされた5か国のうち、3か国がアフリカでした。アフリカで交錯する様々な課題に、WFPはどのように挑んでいるのでしょうか。

8月に横浜市で開催される第9回アフリカ開発会議(TICAD9)を前に、WFPの取り組みを紹介します。

2024年度 寄付金報告

詳しくは 国連WFP協会 年次報告書2024 をご覧ください。

2024年度(1月~12月)、国連WFP協会に寄せられた企業・団体、個人の皆さまからの寄付は約25.9億円になりました。皆さまのあたたかいご支援に心より御礼申し上げます。



国連WFP協会への寄付金総額の内訳

国連WFPへの送金額の内訳

国連世界食糧計画(WFP)日本事務所
認定NPO法人国連WFP協会

<https://ja.wfp.org/>
〒220-0012
横浜市西区みなとみらい1-1-1
パンフィコ横浜6F

SNS情報



ご寄付はこちら



紛争と気候変動を乗り越え 共に創る飢餓のないアフリカ



飢餓の
要因 ①

紛争を乗り越える

飢餓の要因のひとつに、長年続く紛争を挙げることができます。

スーダンでは2023年から国内で武力衝突が続き、翌年7月には飢きんが確認されました。飢きんは食料が慢性的に枯渇し、人びとの命をつなぎとめるために、一刻の予断も許されない極めて危険な状況です。スーダンは紛争が長引いていることもあり、2025年5月には2,460万人が急性食料不安、このうち約63万7000人が飢きんに陥る手前の壊滅的な飢餓状態にあるとされています。

コンゴ民主共和国でも、武力衝突が激化した影響で約2,800万人が急性食料不安に陥っており、周辺国に多くの難民が流入する事態が起きています。

WFPは国連唯一の食料支援機関として、これらの国に対して緊急食料支援を行っています。

アクセスが厳しい現場は、航空機による空中投下や水陸両用車によって食料を必ず届け、国連人道支援航空サービス(UNHAS)を運航して、人道支援に従事している人を移動させています。

2024年には約1億2,400万人に支援を届けました。食料支援は危機的な状況を改善させることができ、南スーダンでは食料不安が改善された地域もあります。



緊急食料支援に並ぶ避難民たち
(コンゴ民主共和国)



避難民キャンプでは、住居を追われた人びとが集まっている
(コンゴ民主共和国)



飢餓の
要因 ②

気候変動に立ち向かう

アフリカの温室効果ガス排出量は世界のわずか4%未満にも関わらず、気候変動の深刻な影響を受けています。WFPは気候変動に起因する自然災害に強い地域づくりを支援しています。

■ 乾いた大地に緑を取り戻す

サハラ砂漠南縁の「サヘル地域」では気候変動により雨が減り、砂漠化が進み、食料不安が深刻化しています。WFPは半月型に掘った穴に雨水をためて作物や牧草を育てる「半月型農法」を支援。5年間で5か国・30万ヘクタール以上を緑化し、約400万人の暮らしを支えてきました。

半月型
農法

特別な道具はいらず、伝統的な方法を工夫した持続可能な農法です。



© WFP/Cheick Omar Bandaogo
2023年5月



© WFP/Cheick Omar Bandaogo
2023年8月

■ 干ばつと洪水

2024年、アフリカ南部ではエルニーニョ現象の影響で史上最悪規模の干ばつが発生し、約2,700万人が深刻な飢餓に直面。日本政府の支援により、WFPは食料・栄養支援などを届けました。中西部では豪雨による洪水が深刻化。緊急支援のほか、災害に備える仕組みづくりも進めています。

■ スーダンでの小麦支援

2025年2月、スーダンではWFPとJICAが連携し、少雨でも栽培可能な耐乾性に優れた小麦の種子や肥料の配布を通じて、生産性や貯蔵管理の向上を支援している。良質な小麦を広く流通させ、弱い立場の人びとが手ごろな価格で入手できるようになることを目指しています。

アフリカの紛争や飢餓は「他人事」じゃない。連帯の心で支援を。

WFP日本事務所代表

津村康博



今年8月に第9回アフリカ開発会議(TICAD9)が開催されます。

私は22年前にTICAD3に携わったことがあり、もう9回目かと感慨深いです。その後15年間アフリカ各地でWFPの現場の支援活動に携わりました。紛争や自然災害の被害を受けた人々への支援、小規模農家支援、干ばつや砂漠化の脅威への対策、地産地消の方給食支援など。その間日本の政府や民間・個人の方々の支援をいただいたり、TICADプロセスの進展もアフリカで見守ってきました。

人びとに寄り添う日本の息の長い支援は、アフリカで信頼と尊敬を

得ているのをこの目で見てきました。

昨今、主要支援国をはじめとして海外支援の削減のため、WFPの活動にも逆風が吹いています。紛争や飢餓は決して遠い国の他人事ではありません。世界はつながっています。

日本は食料の輸入依存度が高く、友好的な国際関係や安全な海上輸送なしには日本の豊かな食卓は成立しません。

TICAD9を機会に、連帯の心と支援の輪が広がることを期待しています。

インタビュー
全文はこちら▶



TICAD
とは?

アフリカの開発をテーマとする国際会議(Tokyo International Conference on African Development)の略で、日本政府や国連、アフリカ連合などが共同で開催しています。3年に一度開催されており、第9回会議(TICAD9)が2025年8月20~22日に横浜市で開催されます。



梁瀬直樹JICAアフリカ部長(左)と津村康博WFP日本事務所代表による署名式